

果樹カメムシ類情報第1号

令和6年4月3日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

チャバネアオカメムシの飛来数は6月末までやや多い予想

1 令和6年のチャバネアオカメムシ越冬成虫密度調査結果

果樹カメムシ類の主要種であるチャバネアオカメムシの越冬成虫密度調査を県内14地点で行った結果、平均越冬成虫密度は0.86頭/m²（過去10年の平均値0.83頭/m²）と過去10年で5番目に高く、越冬成虫の確認地点割合は71.4%（過去10年の平均値57.1%）と過去10年で4番目に高い状況でした（表1）。ただし、一部地域では成虫越冬密度が高かったため、注意が必要です。

2 令和6年の飛来数予測

令和5年8月から10月までの豊橋市、新城市の予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺総数はやや多い状況でした。果樹カメムシ類の越冬世代成虫は、発生量が多い年、少ない年を交互に繰り返す傾向があります（図）。令和6年は多い傾向がある年と考えられるため、チャバネアオカメムシの果樹園への飛来数は6月末までやや多いと予測します。

ほ場での発生状況や5月から始まる果樹カメムシ類の予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数などを参考にして、表2のとおり防除を実施しましょう。

表1 令和6年のチャバネアオカメムシ越冬成虫密度（頭/m²）

調査年	調査地点														全地点の平均	越冬確認地点割合
	幸田町		新城市				豊橋市			豊川市						
	須美北山北	須美北山東	大海	市川	小畑	稲木	嵩山	石巻萩平	石巻平野	小野田	平尾	千両	足山田	金沢		
令和6年	0.7	1.0	0.3	0.7	0.0	1.7	1.3	1.0	3.3	0.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.86	71.4%
平年	0.6	0.3	2.2	2.2	2.0	0.4	0.6	0.5	0.9	0.3	0.3	0.4	1.0	0.8	0.83	57.1%

(参考)

調査年	調査地点		
	豊田市		
	舞木	猿投	西中山
令和6年	1.3	0.7	2.0
平年	-	-	-

平年：平成26年から令和5年までの過去10年の平均値。

全地点の平均及び越冬確認地点割合は幸田町、新城市、豊橋市、豊川市の結果を基に算出した。

豊田市における調査は令和3年から実施。

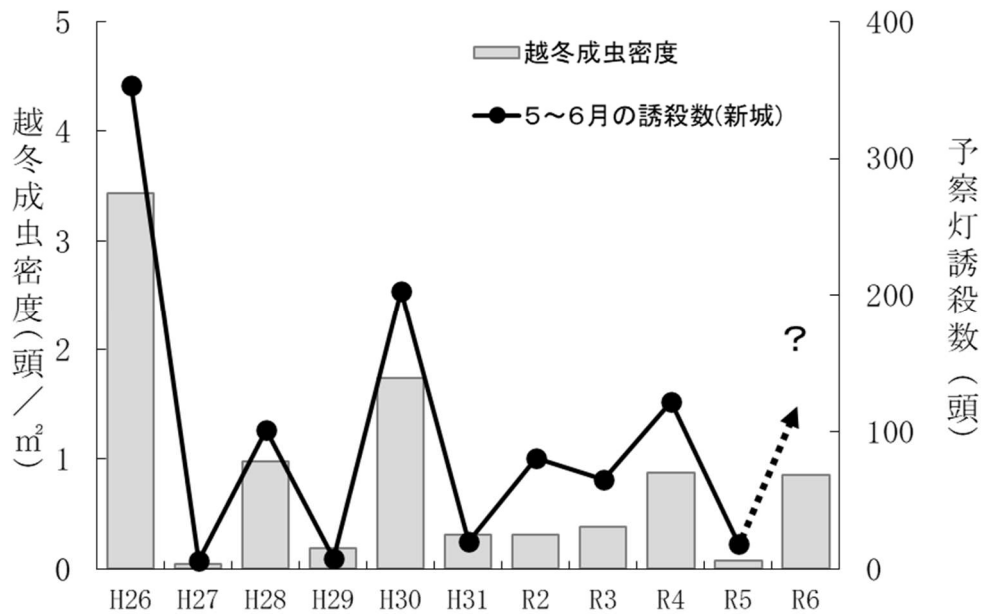


図 チャバネアオカメムシの越冬成虫密度と新城市に設置した予察灯における越冬成虫の誘殺数

表2 果樹カメムシ類に対する主な農薬

作物名	薬剤名	使用時期	使用回数	IRACコード
うめ	アクタラ顆粒水溶剤	収穫7日前まで	2回以内	4A
	スカウトフロアブル	収穫前日まで	3回以内	3A
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤(※)	収穫前日まで	3回以内	4A
もも	アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	テルスターフロアブル	収穫前日まで	2回以内	3A
なし	アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	スカウトフロアブル	収穫前日まで	5回以内	3A
ぶどう	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A
	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	3回以内	4A

※ 小粒核果類で登録

IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRAC コードの詳細はhttps://www.jcpa.or.jp/assets/file/lab0/mechanism/mechanism_irac03.pdf を参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。